日本キリスト教会　広島長東教会だより

ミニバラ No.31

〒731-0135　広島市安佐南区長東 3-32-16

TEL/FAX
082-238-3459

2011 年 1 月発行

救い主キリストに会う

いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。
（ルカによる福音書２章 14 節）

いま世界中の人たちがクリスマスをお祝いしています。神を信じる者たちはこの日神のみ子であり、古今東西すべての人のための救い主がお生まれになったことを信じています。

すべての人のために救い主が生まれたもうたということは、この世界は、人間は、救われなければならないということが前提になっているのです。一人一人の人間、それは男であれ女であれ、老人であれ子供であれ、職業、肌の色、民族の違い、健康か病気かに関わらず、一人として救われなくても良い人間などいないことを認めなければなりません。

どんな人の人生にも悩みがあり、苦しみがあります。たとえそれがなかったとしても、最後には、誰もが死んでゆかなければなりません。どこに救いがあるのでしょう。人生をいかに生きるかということは人間の最大の問題です。

ベツレヘムの羊飼いたちは、神によっていやおうなしに人生問題に直面させられた人たちでした。「主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた」と書いてあります。彼らが出会ったのは、ふつう人間が恐れているものは違うものでした。だから恐れたのです。それは主の栄光を目の当たりにした恐れです。

考えてもみましょう。妖怪や幽霊を怖がる人がいますが、どんな化け物でも怖がって退散してしまうのが主なる神です。このお方を超える存在はどこにもないからです。

この羊飼いたちは、闇夜の中でいきなり神と向き合いました。神の前にまともに立っていられる人など誰もおりません。それまで行った悪事はもちろん、心の中の良くない思いまで神は全部お見通しなのですから、恐れるのは当然でありました。

しかし、天使は告げました。「恐れるな」と。それは、「神はあなたがたの罪のためにあなたがたを滅ぼすことはない」ということです。それどころか、救い主ご降誕をお知らせすることで、神が私たち人間と共におられることを約束して下さいました。

「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」。羊飼いたちは町へ行って、馬小屋の中にいるいま生まれたばかりの救い主を探しあてました。馬小屋の中で生まれた赤ちゃんのことを、他の人は誰も全人類の救い主だとは思いませんでした。だいたい、メシアが汚い馬小屋で生まれるはずがない、とふつうは思ってしまいます。けれども神の光に照らされたとき、人はふだん見えないところまで見ることが出来ます。

動物のにおいの立ちこめる部屋、貧しい夫婦と赤ちゃん、しかしそこに神のしるしがありました。愛する者のところに行こうとする、その愛をもってこの世界に来た神のしるしが。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心にかなう人にあれ」。

この歌に私たちも声を合わせてみましょう。神は誰も近よることの出来ない場所でただ独り鎮座ましましておられるのではありません。神は人間の世界を心にかけて下さっています。愚かで弱く、罪の誘惑になかなか抵抗出来ない人間を、それでもご自分のみ子を送って下さるほど愛して下さっているのです。

もしもここに人生の中で出会うさまざまな困難のために心くじけ、自分のまわりは暗闇ばかりだと思っている人がおられたら、どうかこの日、主の栄光が闇夜を払いのけて耀いたことを思って下さい。全世界を治めたもう神様が皆さんと共におられます。ここで生まれたイエス・キリストを通して神に栄光が、地に平和があります。どうかここにいるすべての人たちがこの日生まれたイエス・キリストによって救われ、悔いなき人生が与えられますように。

（2010 年 12 月 24 日の礼拝説教より）

牧師　井上　豊